



● 今月のご紹介者

吉岡興業 株式会社 代表取締役 吉岡 洋明 氏

『流転の海 全九部』 著/宮本 輝 出版社 / (株)新潮社

芥川賞作家 宮本輝の自伝的大河小説
戦後の日本社会の荒波を描いた、和製「レ・ミゼラブル」



[概要]

著者の宮本輝は 1947 年、兵庫県神戸市にて生まれる。追手門学院大学文学部卒業後、広告代理店勤務の傍ら、執筆活動を始める。1977 年に「泥の河」で太宰治賞を、翌年に「螢川」で芥川賞を受賞する。日本を代表する小説家で、現在も旺盛な執筆活動を行っている。

本書は、自らの父をモデルにした松坂熊吾とその家族の波乱万丈の人生を、戦後の時代を背景に描く自伝的大河小説である。登場人物 1,200 名を超える壮大な人間ドラマから見える「人間の幸福と命」について考えさせられる作品となっている。

Q1 : この本を手にとられたきっかけについて

17歳のとき、書店でたまたま見つけた「流転の海」の背文字。まさか完結まで、30年以上も要するとは思いませんでした。

Q2 : この本をお薦めしたい理由について

物語の舞台は終戦直後から昭和42年までの日本。主人公松坂熊吾の50歳から71歳までの人生が描かれています。松坂熊吾は作者の父親がモデル。主人公の荒ぶる魂の遍歴、それが周りに及ぼす幸福や切実が見事に昇華された宮本輝の大傑作です。この作品には、読めば私たち一人一人の人生観を醸成してくれる何か不思議な力があります。親子、夫婦、男女、その他決して良いことだけではない縁ある人々との関わりを通して、読者である私たちは、何らかの深い気づきを得ます。私はいま50歳。ちょう

ど物語が始まった主人公と同年齢です。私もまた、このような濃密な人生をいまから生きていくのだと思うとワクワクいたします。

Q3 : どういった方にお薦めしたいですか

失望や希望、挫折や高揚、裏切りや情愛、あらゆる要素が含まれているこの小説は、経営者にこそ読んでいただきたい一冊です。

生産技術・保全技術代行商社
吉岡興業株式会社

本社：兵庫県神戸市兵庫区駅前通 2-2-6
資本金：5千万円
従業員数：35名（2019年4月現在）
事業内容：工場施設の設置工事、
工場施設のメンテナンス